

世の中、本当は逆①！？ (教育コラム)

世の中には常識と言うか、固定概念と言うか、それはそれっ、みたいなことって結構ありますよね。例えば、社会人にありがちな仕事の時間に夜に飲みに行く話や週末の遊びの話をして、お酒の席で仕事の話に熱心に語りあったり会社の将来を憂いたり、皆さんも少なからず経験したことはあるかと思います。でも本来、仕事の時間に仕事の話、酒席で遊びの話の方が全うだと思うのは私だけでしょうか？そもそも仕事中に遊びの話をして社交辞令的であったり、パワハラ的要素がどうしても入ってきてしまうように感じますし、酒席で仕事の話に真剣に熱くしても次の日になればケロッと忘れていたりするので、とっても非効率だと思います。このような現象自体は少しずつ減って来ているように思いますが、まあ明らかに逆ですよ。仕事の時間に仕事の話に真剣に、酒席では仕事のことは忘れて趣味やバカ話で楽しい時間を過ごし仕事への英気を養う。明らかに効率的だと感じてしまう、つまらない私でごめんなさい。ということで、世の中逆だよねと思うことを、5つ取り上げていこうと思います。その中には教育に繋がる部分が多くあると思いますので、「逆だよね〜！」と感ぜてもらおうか、「それってあなたの感想ですよ？」と、ひろゆき的に感じられ

るかはお任せいたします。

1 つ目は、『参考書・問題集の選び方』についての逆です。大人になってから参考書や問題集を購入する機会は殆ど無いと思いますが、ご自身の学生時代のことを思い出していただいたり、お子さんに購入する時のことを考えてみてください。出来るだけ薄い本を選んでいませんか？そもそも分厚いと最後まで終わらせられないからと感じて、1ヶ月で完成〇〇マスターのようなフレーズのいかにも簡単で早く終わります、のようなキャッチコピーにつられて、見た目薄い本を好んで購入していませんか？あるいは、お子さんのためにしていませんか？もちろん、中身を見て検討しているとは思いますが、上記のような印象がどうしてもあると、内容を吟味していても簡単で早く終わらせられる薄い本が良いと感じてしまうものです。しかし、私は逆だと思っています。まず参考書や問題集を購入する時と言うのは、殆どの場合はまだ学習していない範囲を自学する時だと思います。その上で、同じ範囲例えば中学数学を網羅的に掲載している参考書であれば、分厚く1つの単元・章・分野の内容を紙面を十分に使い詳しく説明している本の方が、時間はかかってもきちんと1つずつ理解して進んで行けます。実際に分厚い参考書を偏見なしに見てみてください。

挿絵や図解等にも紙面が割かれていて、明らかに丁寧に解説してあります。

薄い本はそういった点をはしょっていて、一度学んで理解した範囲の復習のためだけなら理解も出来るかもしれませんが、初めて自学する場合は結局理解が進まず、途中で諦めて最後まで終わらせられない可能性が大きいと思います。実際、価格的にも薄い本の方がお手頃感があったりしますが、きちんと理解して1冊を終えられなければ本末転倒です。

2 つ目は『勉強をやってないと言う人ほど、陰で努力していたりする。』

これは逆と言うより、この発言をして陰で勉強をして結果を出している人の思考法では一定以上の学力までしか到達出来ないのではと私は感じています。そう言う意味での逆と捉えてください。私自身がこの発言をしていたと言う訳では無いのですが、私の学力は高校生留まりだったと今になって思います。高校生までは勉強すれば自分の学力・成績が上がっていている感覚があり、結果も出ていたように感じます。しかし、大学に入ってから中々学力が伸びて行きませんでした。大人になってから感じていることは、高校までの勉強範囲は所謂大学受験に集約されていて、学習内容もそこに収束していたと思います。要するに、大学受験の範囲までが学ぶ対象のため、ゴールに向かってドンドン進んで行っているような感覚で

した。しかし、大学に入ると学問の壮大さと言うか、終わりなき探求と言うか、学習すればするほど学習する範囲が広がっていくように感じました。私の頭の中のイメージですが、高校までの学習はまるでアルファベットのAのように頂点に向かって登って行っている感覚です。一方、大学生以上の学習のイメージはアルファベットのYのようにやればやるほどドンドン広がっていく感覚で、どこかで自分の専門を特定しないといつまで経っても永遠に終わりのない領域をウロウロしている状態で、自分の中での成長すら実感することも出来ない状態だったと思います。

話を戻して、勉強をやってないと言って実は自分だけ陰でやってる人は、高校生までの相対的に見て狭い範囲の学習までしか対応出来ないと感じます。狭いという意味は学習範囲のみならず、狭い範囲の競争相手（クラス内・学校内・学区内・大学受験生）の中でしか成果はせず、結果勉強の本質を理解出来なかった私のように、限界が来てしまうと思います。もちろん、中学受験や学校内の中間・期末試験さらに高校受験や大学受験では競争相手が明確にいて、学習範囲（実際はかなりの範囲）も同様に明確であることは周知の事実になるので、その中で努力して結果に結びつけていかななくてははいけません。ただし、そのような段階でも頭のイメージでは常にAだけではなくYのイメージも同時に持つておくことで、学習の幅は広

がり、さらに一段上の視野から現在の学習を捉えることが出来ると思います。その結果、勉強自体に興味を持ち、勉強が好きになり、大学はもちろんその先の進路や大人になってからの学習に大いに繋がっていくと思います。そういう意味で2つ目の逆は勉強は収束ではなく拡大・発散するイメージを持って、決して自ら狭い範囲に停滞してしまわないこと。大人になってからも職場内や業界内での成績やライバルに差を付けて出世するための、やってない発言や陰での努力に留まっているようでは、自身の成長を妨げてしまいかねないと思っています。ちなみに、年度末は受験シーズンでもありますが、一つ上の視野から今取り組んでいる受験勉強の範囲（定期テスト等も同様ですが）を捉えてみると、終わりの見えない果てしない学習の一部と捉えることが出来るので、学習範囲がそれなりに広く難解であっても特定出来るため、そこに向かって進んで行っていることを実感出来ると思います。なんとなく伝わっていれば幸いです。

と言うことで、まだ2つ（例の酒席の話を入れると3つですかね！）しか伝えていませんが、それなりの分量になってしまったので、残りの3つについては次回以降にしたいと思います。世の中の常識や固定概念や「ねばならない」のような考え方に従っていれば、一見スムーズに人生が進んでいくように感じてしまいますし、そこからはみ出る勇気のようなものは

一定必要だとは思いますが、逆の選択や生き方の方が案外気楽に自分らしく人生を送れる可能性もあると個人的には思います。本当に逆なのか？単なる私の個人的な感想なのか？のご判断はお任せいたします。

ソニー生命保険(株) 大分支社
〒 870-0029 大分市高砂町 2-50
オアシスひろば 21 9 階
TEL 097-532-9200
ライフプランナー 山田新悟